

秋まきたまねぎ栽培の1球重推定が可能となる生育指標

【1 成果概要】

3カ年の生育調査結果を元に、**球重予測の目安**となる生育指標の設定について検討を行ったところ、秋まきたまねぎ栽培では、草丈よりも葉鞘径の相関が高く、**越冬前に葉鞘径5mmに達すると1球重200g以上を確保**できることがわかりました(図1)。

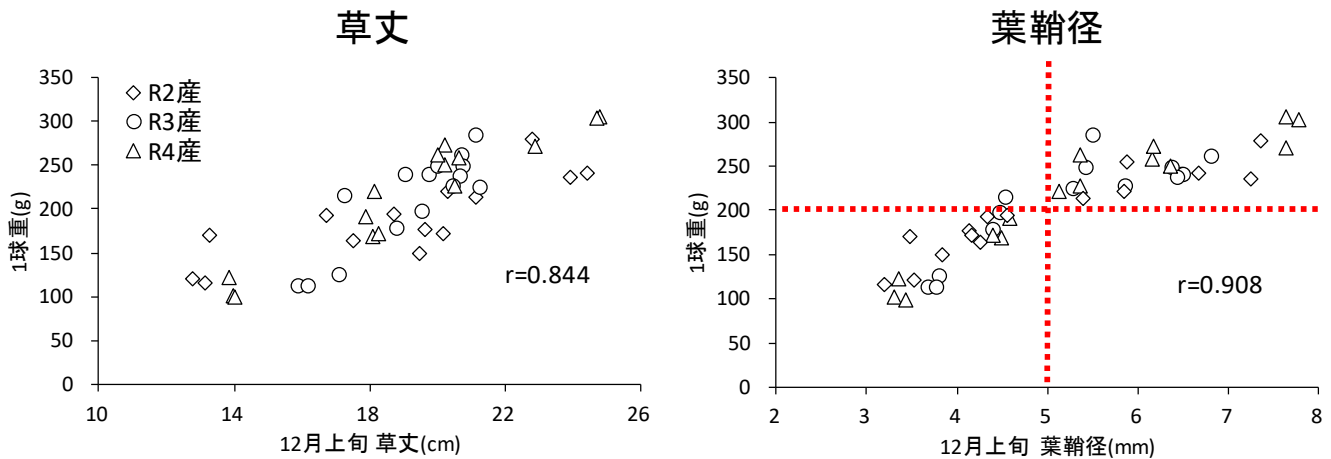


図1 草丈、葉鞘径と1球重との関係 (R2産-R4産)

【2 効果】

越冬前の生育診断を通じて、適期定植や良質苗生産の指導に活用できます。

【3 留意事項】

- (1) 品種「もみじ3号」での試験結果です。
- (2) 葉鞘径は葉鞘下の最も細い部分の長径を計測します。
- (3) 越冬前調査は平均気温5℃以下に達する時期に実施します(県北中南部:11月下旬～年内、沿岸部:12月上旬～年内)。なお、たまねぎでは基準温度5℃とした積算温度と展葉との関係が深いことが知られています。
- (4) 越冬前に葉鞘が太くなり過ぎると抽苔が発生する可能性があります。閾値については不明です。
- (5) 詳細については、「令和4年度試験研究成果書」をご覧ください。

【4 適応対象】

- (1) 地帯 県内全域
- (2) 対象者 J A営農指導員、農業普及員等